

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2026年9月10日(木)

NO. 1712号

本号3頁

沖縄・玉城知事「9月にはうれし涙を」都内で激励集会、 旧民主党系議員らが3選へエール

9月13日投開票の沖縄県知事選で3選を目指す玉城デニー知事は9日、東京都内で開かれた激励集会に出席し、立憲民主党や中道改革連合、共産党、社民党などの関係者から支援の言葉を受けました。玉城氏は「一緒に希望を持ち、その先に進んでいく政治を行いたい」と述べ、「皆さんの顔を見ると感激してしまう。9月にはうれし涙を流そうじゃありませんか」と支持を訴えました。

玉城氏は平成21年の衆院選で民主党公認候補として初当選。その後、生活の党と山本太郎となかまたちなどを経て、平成30年の沖縄県知事選で初当選しました。

会合には、国会議員時代から親交のある旧民主党系の議員らが顔をそろえました。長く国会議員生活を共にした中道の小沢一郎前衆院議員や、立民の森裕子衆院議員らが出席し、旧民主党政権の「同窓会」の様相を呈しました。

「民主党政権…大切な思い出」

立憲の田名部匡代幹事長は壇上で、「安定的、継続的な沖縄県政を進めてもらうため、迎える選挙をわれわれも全力でお支えしたい」と強調。「共に国政で仕事をした時期もある。旧民主党政権……嫌な思い出ではないですね」と振り返ると、玉城氏は「大切な思い出」と応じました。

沖縄県知事選 県民の誇り・尊厳かけ 平和築く県政継続を 那覇総決起集会 デニー知事 勝利へ決意

沖縄県知事選は、高市政権が官邸・自民党の総力をあげて県政を奪い取ろうとする中、県民の誇りと尊厳をかけて奮闘する玉城デニー知事と、政府いいなりの新人が一票を争う激しいデッドヒートを繰り広げています。5日、デニー知事の必勝をめざす那覇総決起街頭演説会が那覇市の県民広場で開かれ、集まった多くの人たちは「平和で誇りある豊かな沖縄」の実現を掲げるデニー県政の発展、継続のために何としても大激戦を勝ち抜く決意を固めました。

支援者らとともに中心商店街を道ジュネー（練り歩き）しながら、デニー知事が県民広場に到着すると、聴衆の間に「デニー、デニー」の熱気あふれるコールが湧きかえりました。

デニー知事は、高市政権に丸抱えされ、政府の軍備増強押し付けを容認している相手候補に対し、武力によらず対話と外交でアジア・太平洋地域の平和を築く道を歩んできた県政の継続を必ずと表明。「対話によって国と国の信頼関係をつくり、交流を広げていく。その方向性は変わらないとこの知事選で確かめていこう」と力を込めました。

今回が最後の選挙になるかもしれないと語った上で「全身全霊で頑張っていく」と強調。自身に先立ち訴えた喜納昌吉元参院議員の発言にふれ、知事選後には首里城復旧完了や「世界のウチナーンチュ大会」が控えているとして、沖縄のアイデンティティを継承していくと述べました。

選対本部長の高良さちか参院議員（会派「沖縄の風」）は、基地のない平和な沖縄を掲げると同時に経済発展も実現してきたデニー県政の継続で、「平和も、経済発展も選び取ることができる」と強調しました。

日本共産党の渡久地修県議は、高市首相が沖縄戦犠牲者追悼の「慰霊の日」、「南西地域はわが国防衛の最前線」と述べて沖縄の戦場化を想定した軍拡をさらに進める宣言をしたと批判。その歯止めになってきたのがデニー知事だとし、「政府いいなり県政にはならない」と訴えました。



県知事候補

デニー知事の妻の玉城智恵子さん、医療従事者の原口菜々子さん、山田マドカ那覇市議らも訴えました。

さらに公選法違反か 古謝玄太候補Tシャツプレゼント

沖縄県知事選で自民党などが推薦する古謝玄太候補の決起集会（8月5日）で、クイズの景品としてオリジナルTシャツが準備され、参加者に無料で渡った疑いがあることが4日、分かりました。公職選挙法は、政治家が役職員や構成員となっている会社や団体が、政治家の名前を表示して選挙区内の者に寄付することを禁じています。

この決起集会では酒類などの「飲み放題」が参加者に格安提供したとされる公選法違反疑惑も浮上しており、古謝氏側の説明責任があらためて問われます。

集会は「古謝玄太決起集会～県内の若手大集合SP」と題して那覇市内のホテルで開催。参加費は1000円でした。古謝氏は自身の公式YouTubeなどで、同氏らが立ち上げた「G. O. K. U.」という団体が開いたとしています。

クイズは集会開会から1時間たとうとするころに始まり、司会が「全問正解した方に『玄太Tシャツ』を限定5名の方にプレゼント」と説明。四つ問題が出され、全問正解者として登壇したのは高校2年生だという1人だけでした。司会はクイズの最後に「Tシャツ、あとでプレゼントします。残り4名の方はほしかったら、あとで言って」と述べました。Tシャツを受け取ったならば代金分が寄付された形になります。

2022年に古謝氏が参院沖縄選挙区で出馬した際、同氏側からポロシャツ制作を受注した県内の業者は、選挙で候補者側から発注されるTシャツの価格について「2000円前後が多い」としています。

参加者には、ホテルが提供する本来のドリンク飲み放題料金から1000円を差し引いた額が寄付された疑いもあります。

しんぶん赤旗が4日、Tシャツ贈呈について古謝氏の事務所に質問しましたが、「現在、対応できる者がいない」との返答でした。

「デニー人気感じた」共産・小池氏、沖縄知事選を語る **「横一線の大激戦」自民には反発**

共産党の小池晃書記局長は7日の記者会見で、共産などが後押しする現職の玉城デニー氏（66）と元那覇市副市長の新人、古謝玄太氏（42）＝自民、維新、国民、参政、保守推薦＝による事実上の一騎打ちとなっている沖縄県知事選（13日投開票）について、「横一線の激しい戦いになっている。最後の最後まで行く末が見極めきれない大激戦になる」と述べました。

「これからの勝負だ」

小池氏は週末に沖縄入り。玉城氏の街頭での反応について「非常にいい。車から手を振ってくれる人はデニーさんに8割くらいだった。デニーに対する人気の強さは感じた」と述べました。

自民党側の選挙戦については批判。自民沖縄県連が地元紙に掲載したという「変えなければ、この子の未来は守れない。」との全面広告を取り出すと、「誰がこういう事態を作っているのか」と反発しました。広告では沖縄の現状について「1人当たり県民所得が全国最下位」などを掲げているといいます。小池氏は「全国の米軍基地を沖縄に押し付けてきたことが、沖縄経済の最大の阻害要因になっている」と主張。広告が問題視する子供の貧困率についても「デニー県政のもとで改善している」と述べ、「自民党の沖縄経済に対して果たしたマイナスの役割を棚に上げて、デニー県政を攻撃するのはフェアな宣伝、フェアな主張ではない」と批判しました。その上で、自民側の「変えなければ、この子の未来は守れない。」との訴えに対し、「変えたら、この子の未来は守れない」と対抗しました。

地元メディアなどの世論調査で態度を決めていない有権者が4割程度いるとも指摘し、「これからの1週間の戦い次第だ」と強調しました。

ショボイ・期待外れの 内閣改造・自民党役員人事

大山鳴動して鼠一匹か。9月末にも行われるという閣僚と自民党役員人事は、当初は大幅な閣僚入れ替え、大人事とみられていました。しかし、いざ聞こえてくる名前を聞くと……。

自民党関係者が明かすには、「今回の人事の最大の目玉と言われたのが、高市色を出すため麻生色の排除、つまり鈴木俊一幹事長の交代でした。ところが各メディアでは、鈴木幹事長続投という報道が相次いでいる」と。当然ながら鈴木幹事長の後ろ盾である麻生太郎副総裁も、留任の公算大だという。

一部で高市早苗首相と対立、財務省寄りの姿勢が見られた片山さつき財相の交代の可能性が取り沙汰されたが、こちらも続投だという。さらに茂木敏充外相、首相の右腕である木原稔官房長官、さらには次の総裁選で再び激戦いを演じるであろう小泉進次郎防衛相も続投の可能性が高まっています。

「こうして見てくると8月中、あれほど大規模人事と騒がれていたのとは全く真逆の状態に。となると閣僚、党役員人事は何のためにやるのか、という声が聞こえてきます」（自民党関係者）

政治アナリストは次のように指摘します。

「高市首相は本音では、幹事長を交代させたかった。他のポストも大規模にガラガラポンをやりたいかったわけです。ところが現実には直面すると、あるいは来年の総裁選を見据えた時、麻生副総裁を敵に回すのは厳しいと悟った。そこに消費税の財源や長期金利問題など、経済問題がらみでアメリカのベッセント財務長官が恫喝。支持率低下も重なり、蓋を開ければ小幅改造とならざるをえなかった、というのが正直なところでしょう」と。

維新の会から選ぶ閣僚には副首都構想推進に好都合なポストを

残るポイントは、日本維新の会から閣僚を初めて誕生させること。さらに、高市首相とソリが合わないといわれる党政調会長ポストを、小林鷹之氏から誰かにすぐ替えるのではないかと、いうものです。

永田町関係者は、「高市首相は昨年の中選挙区指名時、公明党の連立離脱で窮地へと追い詰められました。その時、総裁選で敗れた小泉防衛相と深く通じている維新の吉村洋文代表を説得し、親身になって高市首相を助けたのが維新きっての武闘派、藤田文武共同代表でした。高市首相は本音では、相性が合う藤田氏を入閣させたい意向です」。しかし、当の藤田氏は、先輩であり維新内でタッグを組んできた馬場伸幸元代表の入閣を強く望んでおり、今回はそれが現実のものとなりつつあります。副首都構想推進のためにも好都合なポストは、総務相だろうか。

では高市首相のおぼえがめでたい「旧統一教会系裏金議員」の萩生田光一氏はどうなるのか。自民党長老が言う。「萩生田氏は高市首相が強く望んだ幹事長職を、自ら辞退したと聞く。萩生田氏が幹事長なら、自民党は党内抗争が激化しかねない。それと世論はまだ『裏金批判』から脱していないと、萩生田は判断したようだ。今回の人事では幹事長代行続投、あるいは小林氏に代わる政調会長だろう」

いずれにしても「本格高市政権に向けての大改造」はなく、ショボイものとなりそうです。

性暴力生む戦争許さない 新宿 ウィメンズアクション

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は5日夜、「ヤバすぎる高市政権にNO！ウィメンズアクション」を東京・新宿駅前で行いました。1300人（主催者発表）が集まり「家父長やめさせよう」「9条改憲反対」とコールしました。

司会の菱山南帆子総がかり実行委共同代表は、戦争は同時に性暴力を生み出すと指摘。「戦争を許さず、私たちは自由と権利を持つと、声を上げていこう」と呼びかけました。

元東京都豊島区議の山口菊子さんは、高市早苗首相は、市民の物価高の苦しみに関心を示していないと指摘。「一人一人の営みに心を砕く政治が必要だ」と語りました。

全国一般労組東京南部の中島由美子委員長は「女性権力者によって女性同士が分断されてはいけません。労働者として戦争に加担する労働もしたくない」と強調しました。

日本共産党の畑野君枝衆院議員と社民党の福島瑞穂党首が参加。畑野氏は「衆院の比例定数削減で、女性議員を減らすなど世論を起こそう」と話しました。参院会派「沖縄の風」の高良沙哉参院議員は「人を大切にする、玉城デニー県政の実績を広げてほしい」とメッセージを寄せました。